

5 教科実践提案

国語科 第2学年授業実践

話し合いで読みを深めよう～学習材『スーホの白い馬』～

実施 平成25年1月～2月

対象 第2学年ふじ組児童（男子14名、女子17名）

授業者 岩浅 健介

（1）単元の目標

○関心・意欲・態度

・自分から、話し合い活動にかかわるために、進んで調べようとしたり読もうとしたりする。

○読むこと

・時間・場所・人物・出来事をおさえながら、作品の設定やあらすじをとらえて読んでいる。

・本文に書かれていることを手がかりに、登場人物の心情を読んでいる。

○話すこと・聞くこと

・本や資料・本文の記述・叙述に根拠や理由をもって、はっきりと分かりやすく自分の意見や考えを述べている。

・友達の見解や考えで、大切なことを聞き逃さないように聞いている。

○異文化間

・モンゴルの人々のくらしを想像しながら、楽しく物語の世界に浸る。

・モンゴルについて、調べて分かったことを踏まえて読んでいる。

（2）単元について

① 教科の視点から

物語文を読むためのポイントとして、『作品の設定』『視点』『中心人物の心情』『表現技法』『主題』の5つを児童に提示してきている。学級全体で主題を読み取るには、一人一人で読み進めるのではなく、友達同士の意見交流を行うことが大切である。また、自分の意見や考えを述べる際の話形指導も、明確に根拠や理由がわかるよう、くり返し指導を行っている。本教材でも、児童が互いにコミュニケーションを取りながら、より深い読みへと繋がるような活動とした。

そして、物語の雰囲気を感じ取ってもらえるよう、もの悲しい馬頭琴の音色を、本文を読む前に聞かせた。話題には、「スーホは幸せであるか？」という問いを用意し、ただ悲しい、寂しいではない、物語の主題へと迫れるように考えた。


② 研究との関連から

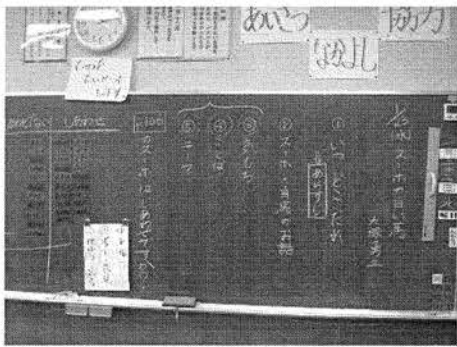
「建設的な批判的思考力」「問題解決力」「論理的思考力」「行動力」を国語科として育むには、児童が話し合いの柱を立て、話題を探し、話し合う材料を見つけ、主体的に意見を交流する活動を軸に、文章読解を行う単元を年間に1単元計画する。本単元は学年の発達段階を考え、教師がある程度話し合いにかかわり、児童の主体的な意見交流の場を保障するように計画した。

モンゴル文化に触れる体験を充実させて、日本との対比を意識し、違いに気づかせることを手立てとした。

また、「自文化（日本）と他文化（モンゴル）」との間に立つことと、自分と友達、あるいは、友達と友達との間に立つことを念頭に置いて単元計画を立てた。そして、本単元では調べ学習や読書の時間を同時並行的に進めるようにもした。興味関心が、モンゴルへ向かうことが考えられたからである。モンゴルをより詳しく知る過程で、進んで自分からモンゴルの文化へかかわっていきえるような態度を育みたいと考えた。また、話し合い活動を、友達の考えや意見の違いを受け止めるように進めていくようにした。この過程で、自分と友達との間に立つ・友達と友達との間に立つことができると考えたからだ。そして、よりよい考えを練り上げていくような態度を育みたいと考えた。

（３）学習の実際（全13時間）

学習の流れと児童の主な学習活動	◇手だて ◆見取り
<p>第1次 外国の物語を読もう（3時間）</p> <p>1・2時間目</p> <p>○聞き慣れない音楽をよく聞き、感想をもった。</p> <p>○ホーミーと馬頭琴を演奏している映像・モンゴルの風景や生活が分かる映像を見て、当初の感想と比べた。</p>  <p>3時間目</p> <p>○教師の判読による『スーホの白い馬』の物語を聞き感想をもった。</p>	<p>◇聴覚資料をくり返し聞かせた。</p> <p>◇視聴覚資料を見せ、生活様式をかいつまんで解説した。</p> <p>◇自由な想像を聞くために、フリートーク形式で発言させた。</p> <p>◆ホーミーを聞かせたときには、大爆笑がおこった。くり返し聞いている内に、倍音に気づく子が表れた。</p> <p>◆「世界の終わりみたいに悲しい」という児童の発言が全員の喝采を浴びた。</p> <p>◆不思議な音色の音曲を聴きながら、アジア圏ではあるが、日本とは違う場所のイメージをもった。</p> <p>◇付箋紙を使って、互いの感想を交流した。</p> <p>◆資料を踏まえて、場面や気持ちを想像しながら発言していた。</p>
<p>第2次 話し合って読みを深めよう（10時間）</p> <p>4・5時間目</p> <p>○全文を読んで、作品の設定をつかんだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルのお話 ・昔のお話 ・スーホが白い馬を育てるお話 <p>○作品の設定から、今後の学習計画を考えた。</p> <p>→既習事項から、話し合うテーマで「スーホはどんな人か？」などの意見が出たが、すぐに、まとめて記述された箇所を見つけ、話し合いが滞ったので、先にお話をまとめてから、テーマを考えることにした。</p> <p>6～8時間目</p> <p>○物語のあらすじを話し合いながらまとめた。</p>	<p>◆馬頭琴の音色と物語の読み取りから、「悲しい」「辛い」というネガティブな感想が多かった。</p> <p>◇「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どうした」と、設定を読み取った。</p> <p>◆「昔モンゴルでスーホが馬頭琴を作った話」という共通理解が図れた。</p> <p>◇話し合いの5つのポイントを指針とし、板書した。</p> <div data-bbox="836 1680 1218 1892"> <pre> graph TD A[物語の主題] --> B[人物の心情] C[モンゴルの文化] --> D[作品の設定] B --> D D --> E[表現技法] </pre> </div> <p>◇「いつ」から場面分けをした。</p>

<p>「昔モンゴルでスーホが馬頭琴を作った話」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある日、スーホは白い馬を見つけた。家族が増えたみたいでうれしかった。 ・ある晩、スーホは白い馬が狼と戦って羊を守ってくれたことに感謝した。 ・ある年の春、町で競馬に出たスーホと白い馬が、1等になったけれど、とのさまに白い馬を取り上げられてしまって悔しかった。 ・その晩、スーホは、傷だらけの白馬が自分のところへ帰ってきたことを知ってうれしく思ったけれど、矢を抜きながら、悔しい気持ちで一杯になった。 ・次の日に白馬は死んでしまった。 ・ある晩、夢で白馬が、楽器を作ってくださいと言った。 ・スーホは馬頭琴を作って弾いたらモンゴル中に広まった。 <p>○これまでの読みをもとに、話し合う話題を決めた。</p> <p>9 時間目</p>	<p>◇スーホの視点で物語を読み、メモに残した。</p> <p>◇板書の際に、上段に時間、下段にそのときのスーホの言動と気持ち、と書き分けるようにして、視覚的に見やすくまとめた。</p> <p>◇周りの友達と相談したり、分かったことを伝え合ったりしながらあらすじをまとめた。</p> <p>◆「スーホがどうしたのか」「スーホはどう思ったか」という視点で、あらすじを書きまとめることができた。</p> 
<p style="text-align: center;">スーホはしあわせなのか、みんなで話し合おう</p> <p>○スーホは幸せか、根拠となる本文とその時のスーホの気持ちをはっきりさせながら、互いに意見を出し合った。</p> <p>→指摘があったように「幸せ」という概念の深まりのない中で、前時に考えた意見を述べるだけの活動であったため、深まりのない発表となってしまった。少人数グループで、意見をまとめる時間を取るなどの手立てが必要であったのではないか。</p> <p>○スーホが幸せを感じた場面を紹介し合った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーホは、自分と同じ（境遇の）白い馬を見つけて、うれしかった。 ・スーホは白馬と、ナーダムお祭りで1等になったときにうれしかった。 ・スーホは馬頭琴を弾いていて、白馬が側にいると分かったときに、うれしかった。 	<p>◇司会は教師が行い、意見を板書にまとめた。</p> <p>◇まず、自分の立場が分かるように、名札を黒板に貼り、みんなの考えがわかるようにした。</p> <p>◇意見の深まりが無かったため、スーホが「幸せ」なのは、どんな時か考えさせるようにした。</p> <p>◆資料や本文を根拠に、「うれしい」＝「幸せ」、「悔しい」＝「幸せでない」という構図まで共通理解が図れた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">この部分は 公開に適さないため 掲載できません。</p> </div> <p>→自分の考えを発表するにとどまり、受けて返すような、活発な意見交換や感想を互いに言い合う話し合いを目指したが、到達しなかった。</p>

<p>○スーホが馬頭琴を弾くときに、白馬が側にいるような気がする。「ますます」美しく響き、聞く人の心を揺り動かすのはなぜか、考えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーホが白馬のことを思い出しながら弾くから、聞く人にも気持ちが伝わる。 ・白馬が側にいるように感じると、スーホはいろいろなことを思い出すから、音になるような気がします。 <p>○スーホは、最後の場面で、幸せであったかどうか、自分の意見をノートへまとめた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱりスーホは悲しい気持ちも思いだしているから、幸せではないと思います。 ・もう会えないと思った白馬が側にいたらうれしいと思う。 <p>10～13 時間目</p> <p>○今までの話し合いを元に、改めてスーホにとっての幸せとは何か考え、話し合った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナーダムお祭りで1等になったときが一番幸せだと思う。 ・夢に白馬が出てきたときに、幸せだと感じたと思う。 ・幸せか不幸せかは決められない。どちらもあるから。でも、どちらかと言えば、悲しい気持ちが強い。 	<p>◇白馬のことを思い出すと、「音色がますます美しく響く」という表現に着目させるようにした。</p> <p>◆「ますます」という表現からではなく、「側にいるような気がする」との表現により注目して応えようとする児童が多かった。</p> <div data-bbox="797 479 1255 819" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>この部分は 公開に適さないため 掲載できません。</p> </div> <p>◇自分自身の幸せだと思う時間を想起させて、スーホの気持ちと比べるようにした。</p> <p>◇無理にどちらかに決めるようにせず、どちら寄りか？というグレーゾーンも設けた。</p> <p>◆自分の体験と重ね合わせる中で、もしかしたら「白馬が側にいるような気がする」ことは、スーホにとってうれしいことだったのではないかと考える子が数名現れた。</p>
--	--

(4) 成果と課題（授業協議会の内容を踏まえて）

① 成 果

まず、児童にとって、音楽や映像を使った導入は、分かりやすく、お話の世界に浸るためには有効であった。馬頭琴は悲しい音色だったから、きっと物語も悲しい結末になるだろうと、ある程度先読みができた。話し合い活動中での「スーホは、ナーダムお祭りで一等になった時、幸せだったと思う。」という児童のつぶやきは、モンゴルの暮らしぶりを同時並行的に、多読によってたくさんの情報を与えたことによるものと考えられる。物語をより深く読み、物語の世界に浸るための手立てとして、非常に有効であるといえる。また、お話の場面を紹介するため、図画工作の時間に、スーホが幸せな場面の絵を書く活動を行ったことで、一人一人が、馬頭琴の音色が「聞く人の心を揺り動かす」ことに気づくことができたと考えられる。

② 課 題

「スーホは幸せであったか？」という話し合いのテーマ設定について、「幸せ」という概念が、この物語を読み進めていく過程で、変容していくべき性質であるのご指摘をいただいた。幸せか否かという二項対

立の話し合いに終始せず、「スーホは幸せでも不幸でもある」ことから、「スーホにとっての幸せとはなにか」「自分にとっての幸せとは何か」というような話題にしたら、より深い読み取りが出来たのではないかと考える。

また、話し合い交流活動については、黒板の違う意見を書き残したり、相手の意見を書き残したりするだけで、友達と自分との間に立つふりかえりができるのではないかと、いう貴重なご示唆もいただいた。児童のノート作りや板書へのまとめ方への工夫がもう一つあると、活発な意見交流ができたと反省した。